

学校教育目標

人間尊重の精神に満ち よく考えて たくましく実践する 心情豊かな子どもの育成

(めざす子ども像)

ひろい心で助け合う子ども が んばり強く元気な子ども
し ごとを進んでする子ども

目指す学校像(ビジョン)

- (1) 個に応ずる指導を通して、基礎学力の定着を図る学校
- (2) 体験活動等を重視した豊かな心を育てる学校
- (3) 健康に目を向け、より豊かな生活を希求する子を育てる学校
- (4) 保護者・地域に信頼される学校

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準(10/7現在の状況で、努力指標の1~4のうち、いずれかに○)	
				努力指標	備考(進行状況の補足説明及び今後の改善策・予定等)
基礎学力の向上	授業展開の工夫・改善をし、分かりやすく授業づくりを行うとともに、基礎・基本の確実な定着を図る。	家庭学習の習慣化が定着しておらず、また学力調査においては、基礎・基本の定着が十分図れていないことから、家庭学習の習慣化を促しながら、基礎学力の向上を図る。 また、本校の研究主題と関連させ、表現力(話す力)を育成する取り組みを日々計画的に行う。 ※「ほことりタイム」「読書タイム」はこれまで通り、計画的に実施する。	定期的に、年3回(6・9・11月)本校独自の「家庭学習ふりかえりカード」を作成・活用することにより、保護者との連携を進め、家庭学習の習慣化を図る。 ※ 年3回→1回につき2週間継続して実施する。	④ 全学級が計画通り、「家庭学習ふりかえりカード」を実施した。	●全学級が計画通り、6月・9月に「家庭学習ふりかえりカード」を実施した。 ●「家庭学習ふりかえりカードがあると、その時は勉強する。」という保護者の声があった。このことは、その児童にとってカードが効果的である反面、まだ家庭学習が習慣化されていないことを意味している。今後も「家庭学習ふりかえりカード」を実施し、家庭学習の定着を図ってきたい。 ●全学級が計画通り、「お話タイム(スピーチタイム)」を実施している。 ●話す内容が固定化しやすい面もうかがえるので、学年・学級の実態に応じて、話す内容の工夫を図り、「お話タイム(スピーチタイム)」を充実させたい。
			3 90%以上の学級が計画通り、「家庭学習ふりかえりカード」を実施した。		
			2 70%以上の学級が計画通り、「家庭学習ふりかえりカード」を実施した。		
			1 70%未満の学級が計画通り、「家庭学習ふりかえりカード」を実施した。		
			④ 全学級が計画通り、「お話タイム(スピーチタイム)」を実施した。		
			3 90%以上の学級が計画通り、「お話タイム(スピーチタイム)」を実施した。		
			2 70%以上の学級が計画通り、「お話タイム(スピーチタイム)」を実施した。		
			1 70%未満の学級が計画通り、「お話タイム(スピーチタイム)」を実施した。		

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準(10/7現在の状況で、努力指標の1~4のうち、いずれかに○)		
				努力指標	備考(進行状況の補足説明及び今後の改善策・予定等)	
豊かな心の育成	社会性や道徳性を育み、豊かな心の育成を図る。	あいさつやそうじの仕方に課題がある。自主的にあいさつやそうじができる児童を育成する。また、縦割りグループでの活動を仕組み、望ましい人間関係づくりを図る。	あいさつ運動に毎月取り組む。	④	全学級が計画通り、「あいさつ当番」を作り、目標を立てて取り組んだ。	●児童会（5月）→6年生（6月）→5年生（7月）→4年生（9月）→3年生（10月）と当番を行い、順番に計画通り取り組んでいる。 ●11月より、また児童会（11月）→2年生（12月）→1年生（1月）→6年生（2月）→5年生（3月）と順番に取り組む予定である。
				3	90%以上の学級が計画通り、「あいさつ当番」を作り、目標を立てて取り組んだ。	
				2	70%以上の学級が計画通り、「あいさつ当番」を作り、目標を立てて取り組んだ。	
				1	70%未満の学級が計画通り、「あいさつ当番」を作り、目標を立てて取り組んだ。	
			縦割りグループで毎月1回（年9回）外遊び（東っ子タイム）を行う。 ※ 体力の向上とリンク	4	計画通り、年9回縦割りグループで外遊びを実施した。（雨天の場合は除く。）	●計画通り、10月で東っ子タイムを4回実施した。残り5か月で、5回実施予定である。 ●遊びの場所を分けし、グループのメンバーがバラバラになる鬼ごっこ等の遊びではなく、グループ全員が一箇所で一緒に遊べるような遊びの内容を高学年の児童が中心になって考えていくよう教員が仕組んでいく必要もある。
				3	年8回、縦割りグループで外遊びを実施した。（雨天の場合は除く。）	
				2	年7回、縦割りグループで外遊びを実施した。（雨天の場合は除く。）	
				1	年6回、縦割りグループで外遊びを実施した。（雨天の場合は除く。）	
			そうじの仕方を明確にして、生活チェックカードで振り返りをさせながら、進める。	④	全学級の担任が、そうじ場所に合った指導を毎日行った。	●5月の生活チェックカードでは、54%の児童が週3日以上掃除を熱心にしたと答えている。指導を引き続き重ねていき、この児童の割合が増えるよう努力していきたい。 ●11月及び2月に生活チェックカードで振り返りを行う予定である。
				3	90%以上の学級の担任が、そうじ場所に合った指導を毎日行った。	
				2	70%以上の学級の担任が、そうじ場所に合った指導を毎日行った。	
				1	70%未満の学級の担任が、そうじ場所に合った指導を毎日行った。	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準(10/7現在の状況で、努力指標の1~4のうち、いずれかに○)	
				努力指標	備考(進行状況の補足説明及び今後の改善策・予定等)
体力の向上	基本的生活習慣の定着を図り、児童の健康・体力づくりを推進する。	基本的生活習慣の定着や、外遊びへの積極的な参加が課題であることから、自分の生活を振り返らせたり、継続的な運動を促したりすることにより、生活習慣の確立や体力の向上を推進する。	児童の生活状況を把握(健康チェックカード)し、保護者にも知らせ、課題に応じた指導を継続的に行う。 ※「継続的」→健康チェックカードは4・9・2月に実施するため、「継続的な指導」とは、年間3回以上の指導とする。	④ 全学級が課題に応じた指導を継続的に行った。	●全学級が計画通り、4・9月に指導を行った。2月も予定通り全学級が指導を行うよう努力したい。 ●4・9月に実施した「健康チェックカード」を分析したうえで、必要であればスライドの教材(仮題:望ましい生活リズム:→下学年版・上学年版)を作成・活用して、基本的な生活習慣の定着の一助としたい。
			3 90%以上の学級が課題に応じた指導を継続的に行った。		
			2 70%以上の学級が課題に応じた指導を継続的に行った。		
			1 70%未満の学級が課題に応じた指導を継続的に行った。		
			運動能力調査結果に基づいて課題を明らかにし、教科体育の準備運動等の中で継続的に取り組む。 ※「継続的」→週に1回以上のペース	4 全学級が課題に対して、継続的に体育の授業(準備運動等)の中で取り組んだ。	●運動能力調査結果からは、長座前屈(柔軟性)とシャトルラン(持久力)が本校の課題であることが明らかとなった。 ●前期、1クラス程、課題に対して継続的に体育の授業の中で取り組んでいなかった。(持久力のみ取り組んだ。)後期からは全学級の担任が、しっかりと自覚を持って取り組んでいきたい。(11÷12=92%→③) ●柔軟性を含めた基本的な動きを養い高めるために、文部科学省から出されている資料「多様な動きをつくる運動(遊び)」を活用できるよう保健部が準備し教員へ配付する予定である。
			③ 90%以上の学級が課題に対して、継続的に体育の授業(準備運動等)の中で取り組んだ。		
			2 70%以上の学級が課題に対して、継続的に体育の授業(準備運動等)の中で取り組んだ。		
			1 70%未満の学級が課題に対して、継続的に体育の授業(準備運動等)の中で取り組んだ。		
			外遊びを奨励し、運動の習慣づけを行い、体力の向上を図る。 ※「外遊びを奨励」 ○週1回以上のクラス遊び ○長縄跳び大会の実施 ※(○月1回の縦割り班での外遊び→豊かな心の育成とリンク→評価は心の育成で行う。)	4 全学級が外遊びを奨励し、運動の習慣づけを行った。 ※主にクラス遊びを評価	●前期、2クラス程、クラス遊びを計画的に(週1回以上のクラス遊び)実施していなかった。後期からは全学級の担任が、しっかりと自覚を持って努力していききたい。(10÷12=83%→②) ●今後寒くなるので、外に出たがらない児童が増加することが予想される。したがって後期は、ボール遊びだけでなく、遊具を使つての遊びや縄跳び(短縄・長縄)、鬼ごっこ等の集団遊びを奨励しながら、多くの児童が外遊びを行うよう各クラスで進めていきたい。また、保健部からも働きかけていきたい。
			3 90%以上の学級が外遊びを奨励し、運動の習慣づけを行った。 ※主にクラス遊びを評価		
			② 70%以上の学級が外遊びを奨励し、運動の習慣づけを行った。 ※主にクラス遊びを評価		
			1 70%未満の学級が外遊びを奨励し、運動の習慣づけを行った。 ※主にクラス遊びを評価		

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準(10/7現在の状況で、努力指標の1~4のうち、いずれかに○)		
				努力指標	備考(進行状況の補足説明及び今後の改善策・予定等)	
信頼される学校	学校における教育活動の情報を積極的に発信し、また保護者・地域等の力を生かした学習の充実を図り、保護者・地域に信頼される学校づくりを推進する。	地域には、保護者も含め、ボランティア意識の高い方がいる。こうした方を含め、広く外部人材を積極的に活用することが教育活動の活性化にとって必要であり、そのことが信頼される学校づくりにつながっていくと考える。これら外部人材を積極的に学習活動等に活用しながら、地域に根ざした開かれた学校づくりを進める。	外部人材(保護者含む)の積極的活用を行い、学習活動等に生かす。 (※学校だより、学年だより、保健だより、給食だより等はこれまで通り、計画的に保護者等に配付する。)	4	外部人材(保護者を含む)を年間延べ130人以上活用する。	【4月】交通安全教室(1年) 5人 読み聞かせ(1~4年) 7人 【5月】運動会練習(5年) 2人 読み聞かせ(1~4年) 8人 下水道出前授業(4年) 2人 【6月】クラブ(グランドゴルフ) 1人 本の修繕 14人 読み聞かせ(1~4年) 8人 食育(手洗い指導) 2人 【7月】リコーダー講習会(3年) 1人 クラブ(グランドゴルフ) 1人 食育(3年:カルビー) 4人 理科授業(5年:広島大学) 8人 【8月】平和学習 4人 【9月】本の修繕 10人 読み聞かせ(1~4年) 17人 薬の授業(6年:薬剤師) 1人 【※10/1】 芸術鑑賞(出前コンサート) 3人 合計98人
				3	外部人材(保護者を含む)を年間延べ120人以上活用する。	● 前期、計画通り積極的に外部人材を活用している。後期も、積極的に活用を行い、学習活動等に生かしていきたい。 (※10/7現在、努力指標1に達していない。)
				2	外部人材(保護者を含む)を年間延べ110人以上活用する。	
				1	外部人材(保護者を含む)を年間延べ100人以上活用する。	